



大学基準協会「大学評価シンポジウム」(メルパルク大阪)

(パネルディスカッション)

内部質保証システムの有効性を高めるために

— 第3期の認証評価におけるポイント —

平成28年10月19日(水)

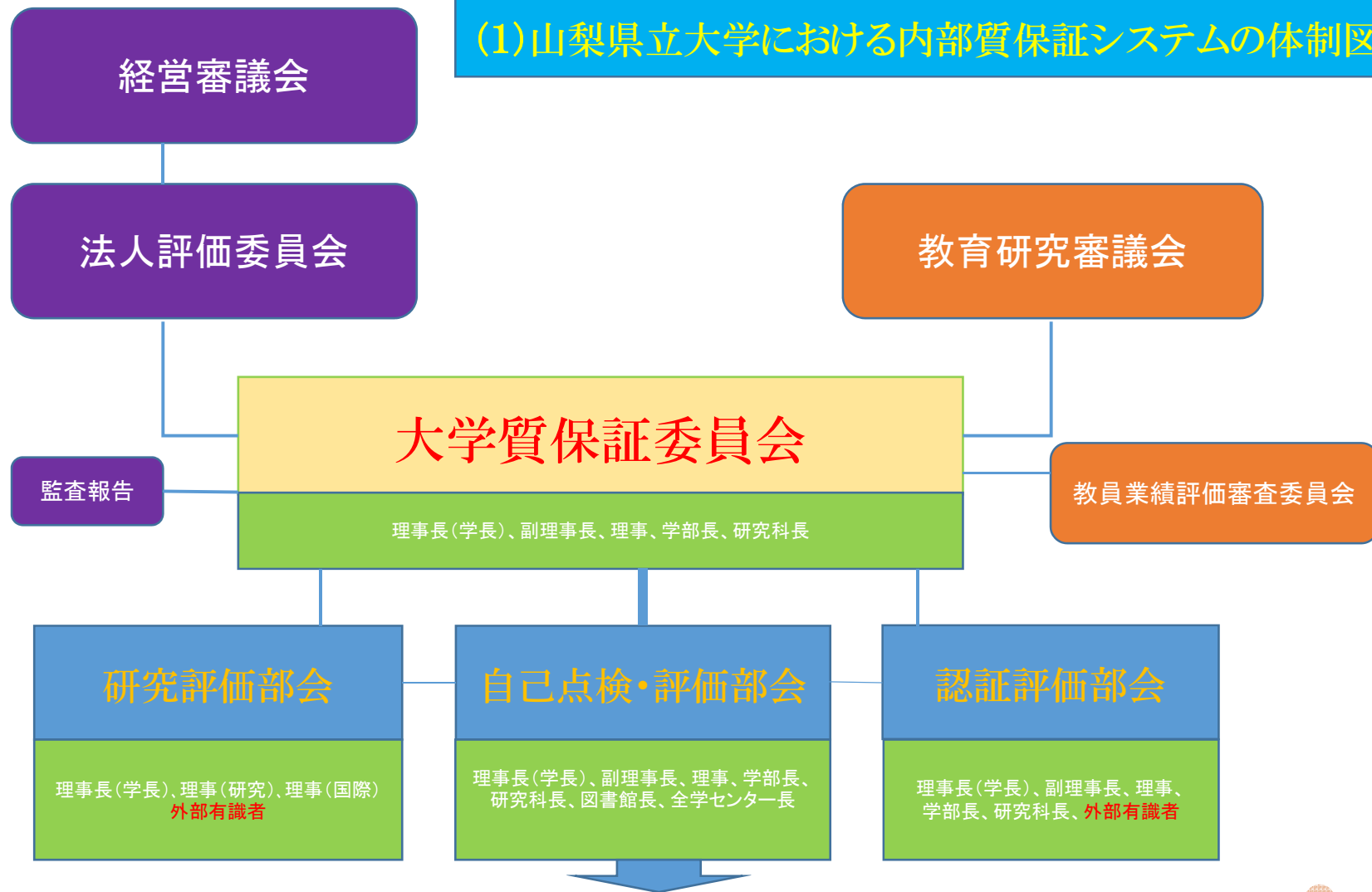
清水一彦(山梨県立大学理事長・学長)

内部質保証システムの有効性を高めるために

必要となる3つの作業

- (1) システム体制(構造)をどう構築するか？
- (2) 検証・評価(P D C A)の目的・視点をどう定めるか？
- (3) 教育の質保証(3 P)をどう構築するか？
 - ① 3ポリシーの設定
 - ②カリキュラムマップの策定
 - ③カリキュラムツリーの策定
 - ④学修成果の測定と可視化

(1)山梨県立大学における内部質保証システムの体制図



1. 学長をトップとする内部質保証に責任を負う**全学組織**を設置する。
2. 既存の全学委員会を**部会制**に編制し、部局等との有機的連関を確保する。
3. **少人数制**を採用し、機動性をもたせる。

(2)質の検証・評価

検証・評価の目的

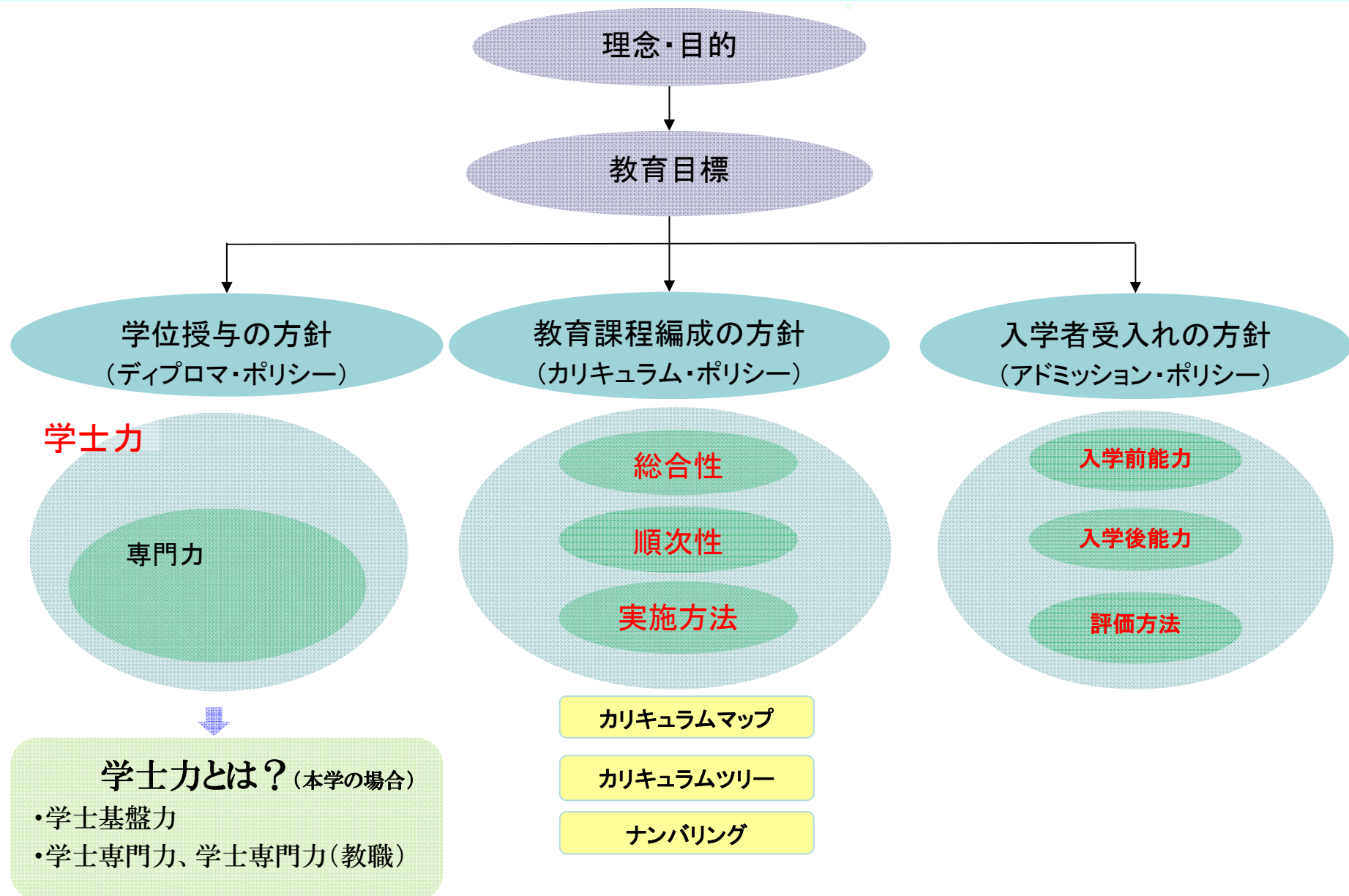
1. 県立大学として質の高い教育研究活動を展開する。
2. 学生の視点に立った学修成果を実質的に保障する。
3. 社会や地域に対する説明責任をきちんと果たす。

検証・評価の視点

1. 必要度—地域や県民のニーズへの合致
2. 有効度—期待された成果の形成
3. 効率度—適正な費用効果

1. 目的においては、「学問の府としての教育研究」「学修成果としての学士力」「社会システムとしてのアカウンタビリティ」が不可欠である。
2. 視点においては、社会(必要度)、組織(有効度)、経営(効率度)の視点が不可欠である。

(3) 3つのポリシー義務化への対応(イメージ図)



山梨県立大学における学士力について

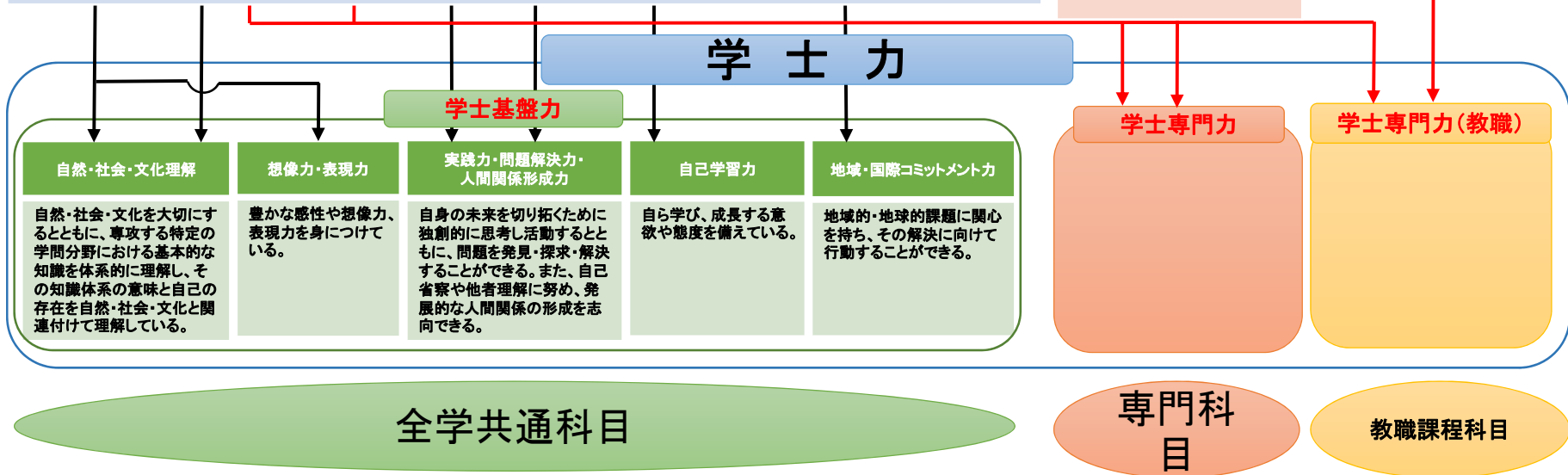
山梨県立大学の教育目標(大学憲章)					
1	2	3	4	5	6
山梨県立大学は、郷土の豊かな自然と歴史や文化を大切に、山梨県を学びのキャンパスとして、ここに学ぶ者の豊かな感性を育みます。	山梨県立大学は、幅広い教養と高度な専門性を教授し、地域社会や世界で活躍できる人材を育てます。	山梨県立大学は、基礎研究から応用研究まで、独創的で多様な研究に挑戦し、学術の発展に貢献します。	山梨県立大学は、自ら学び、自らを培い、未来を切り拓く人材を育てます。また、緊密な人間関係を基盤に、知的刺激に満ちた教育環境を創ります。	山梨県立大学は、地域課題の解決に向けて積極的に取り組み、地域の発展に貢献します。また、アジアをはじめとする世界との連携をはかり、教育・研究活動を通じて国際社会の発展に貢献します。	山梨県立大学は、時代の変化に対応した個性豊かな魅力ある大学づくりを推進します。そのために、評価を通じて不断の改革を推進し、社会への責任を果たします。

山梨県立大学の学位授与方針

本学の理念・目的及び教育目標に基づき、学生の学修成果が次の到達目標に達し、『学士力』を身に付けていると認められる者に、学士(専門分野)の学位を授与する。

1. 全学に共通する「学士基盤力」を身に付けている。
2. 各専門分野における「学士専門力」を身に付けている。

各学部・学科の教育目標	教職課程の教育目標
各学部・学科の学位授与方針	教職課程の学位授与方針



大学全体のカリキュラムマップ

目的・理念

「グローバルな知の拠点となる大学」、「未来の実践的担い手を育てる大学」、「地域に開かれ地域と向き合う大学」たることを希求し、人間と社会に対する学術的研究、豊かな人間性及び専門的な職業能力を備えた人材の育成並びに地域社会に対する実践的な貢献を通じて、豊かで活力ある社会の発展に寄与する。

教育目標

- 山梨県立大学は、郷土の豊かな自然と歴史や文化を大切に、山梨県を学びのキャンパスとして、ここに学ぶ者の豊かな感性を育みます。
- 山梨県立大学は、幅広い教養と高度な専門性を教授し、地域社会や世界で活躍できる人材を育てます。
- 山梨県立大学は、基礎研究から応用研究まで、独創的で多様な研究に挑戦し、学術の発展に貢献します。
- 山梨県立大学は、自ら学び、自らを培い、未来を切り拓く人材を育てます。また、緊密な人間関係を基盤に、知的刺激に満ちた教育環境を創ります。
- 山梨県立大学は、地域課題の解決に向けて積極的に取り組み、地域の発展に貢献します。また、アジアをはじめとする世界との連携をはかり、教育・研究活動を通じて国際社会の発展に貢献します。
- 山梨県立大学は、時代の変化に対応した個性豊かな魅力ある大学づくりを推進します。そのために、評価を通じて不断の改革を推進し、社会への責任を果たします。

学位授与の方針

本学の理念・目的及び教育目標に基づき、学生の学修成果が次の到達目標に達し、『学士力』を身に付けていると認められる者に、学士(専門分野)の学位を授与する。

- 全学に共通する「学士基盤力」を身に付けている。
- 各専門分野における「学士専門力」を身に付けている。

教育課程編成の方針

学士(専門分野)に係る学修成果を身に付けるための教育プログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成し実施する。

<総合性に関する方針>

- 各専門分野を構成する多様な研究領域のつながりを考慮した専門分野の「総合性」を実現する。

<順次性に関する方針>

- 授業科目区分と履修単位を組み合わせ年次ごとに系統的な学修を促す「順次性」を実現する。

<実施に関する方針>

- 学生の主体的な学びや深い学びあるいは能動的な学修を促す「体験性」を実現する。

入学者受入れの方針

本学の学位授与方針及び教育課程編成・実施方針を踏まえ、入学者選抜の方針を次のように定める。

<入学前能力>

- 高等学校レベルの基礎的な知識・技能とともに、思考力、判断力、表現力及び協調性を身に付けていること。

<入学後能力>

- 入学後にグローバルな知と資格教育による専門職に必要な資質能力を身に付けることができること。

<評価方法>

- 入学者選抜においては、調査書のほか資格・検定試験の成績を加味しながら、確かな学力を評価するための小論文と面接を重視する。

「学士力」

「学士基盤力」

学習成果		測定方法						
自然・社会・文化を大切にするとともに、専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解し、その知識体系の意味と自己の存在を自然・社会・文化と関連付けて理解している。(教育目標1・2)	自然・社会・文化理解	「自然」「地域」「環境」「外国語」「文化」「社会」「情報」「地域」に係る科目の修得および授業評価における自己評価、外国語検定試験の成績						
豊かな感性や想像力、表現力を身につけている。(教育目標1)	想像力・表現力	「演劇」「芸術」に係る科目、演習科目の修得および授業評価における自己評価						
自身の未来を切り拓くために独創的に思考し活動するとともに、問題を発見・探求・解決することができる。また、自己反省や他者理解に努め、発展的な人間関係の形成を志向できる。(教育目標3・4)	実践力・問題解決力・人間関係形成力	インターンシップ・キャリア関係科目、「心理」「コミュニケーション」に係る科目、他学修開放科目の修得および授業評価における自己評価、課外活動等の記録						
自ら学び、成長する意欲や態度を備えている。(教育目標4)	自己学習力	キャリア関係科目の修得および授業評価における自己評価、授業評価における学習意欲に関する自己評価						
地域的・地球的課題に関心をもち、その解決に向けて行動することができる。(教育目標5)	地域・国際コミットメント力	「地域実践科目」「地域課題関連科目」、地域・国際関連授業の修得および授業評価における自己評価、正課外での地域活動、留学等の実績、卒業前アンケート(仮称)						
カリキュラム		「学士基盤力」の学修成果						
分類	科目名	単位数	授業形態	自然・社会・文化理解	想像力・表現力	実践力・問題解決力・人間関係形成力	自己学習力	地域・国際コミットメント力

国際政策学部のカリキュラムマップ(例示:専門力)

カリキュラムマップ

学部	国際政策学部
学科	総合政策学科

学位授与の方針

国際政策学部は、以下のような知識や能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定し、学士(国際政策学)の学位を授与します。
(知識・理解)
・国際社会や地域社会の現状や課題を理解している。
・国際関係、地域政策又は組織経営の分野について、相当の専門知識を有する。
・・(以下、略)・・

教育課程編成の方針

グローバルに開かれた活力あるコミュニティづくりに中心的な役割を果たすとともに、国際社会のなかでも活躍できる、地域に根ざした「行動する国際人」を育成するためのカリキュラムを編成する。
1. 「国際政策とは何か」といった学部で学ぶべきことの全体の見通しと理解を深めるための入門科目を配置する。また、論文の書き方、ディスカッションの仕方など、大学での学修に必要な基礎的能力を養うための科目を配置する。(「導入科目」)
2. 人文科学・社会科学分野を国際的視野に立って、幅広く教養として学ぶための科目を配置する。特に、専門性が高まるコース科目(基礎科目・展開科目等)がスムーズに学べるよう、既存の学問分野の基礎概念(総論・概論)を理解することを目的とする。また、問題解決能力の育成に必要な汎用的技術を修得するための基礎科目を配置する。(「学部教養科目」)
・・(以下、略)・・

入学者受入れの方針

本学科は、主に地域の自然、文化、産業を豊かにして、地域の活力をつくる人材の育成を目標とします。そのため、国際的な視野で現代的課題をとらえる洞察力、地域社会の諸課題を分析して解決を目指す実践力を養うとともに、法務・経営・会計等の基礎的実務能力を培う教育を行います。
総合政策学科では、次のような学生を受け入れます。
[志向]豊かな国際感覚とコミュニケーション力を備えた「行動する国際人」を目指す人
・・(以下、略)・・

「専門力」の学修成果

〇〇することができる。等	〇〇力
	〇〇力
	〇〇力
	〇〇力
	〇〇力

カリキュラム

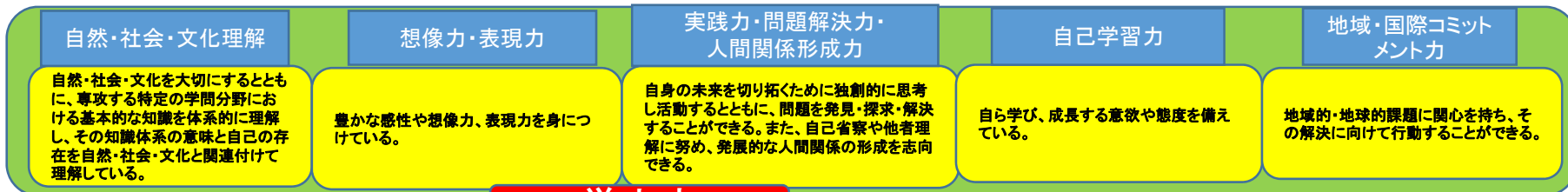
「専門力」の学修成果

分類	科目名	単位数	授業形態	「専門力」の学修成果				
				〇〇力	〇〇力	〇〇力	〇〇力	〇〇力
導入科目	国際政策入門(地域マネジメント)	2	講義					
	国際政策入門(国際ビジネス観光)	2	講義					
	国際政策入門(国際コミュニケーション)	2	講義					
	基礎演習Ⅰ	1	演習					
	基礎演習Ⅱ	1	演習					
	地域実践入門Ⅰ	1	演習					
	地域実践入門Ⅱ	1	演習					

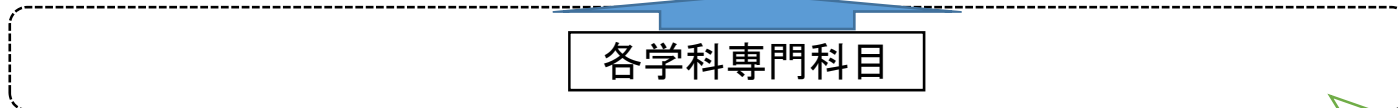
必修

山梨県立大学 カリキュラムツリー(大学全体)

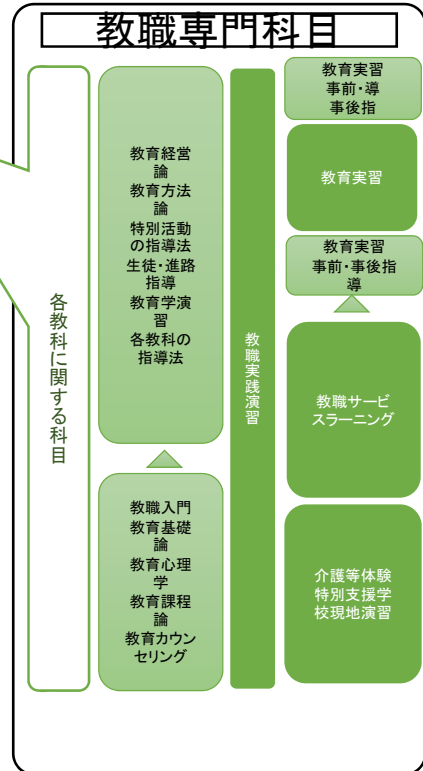
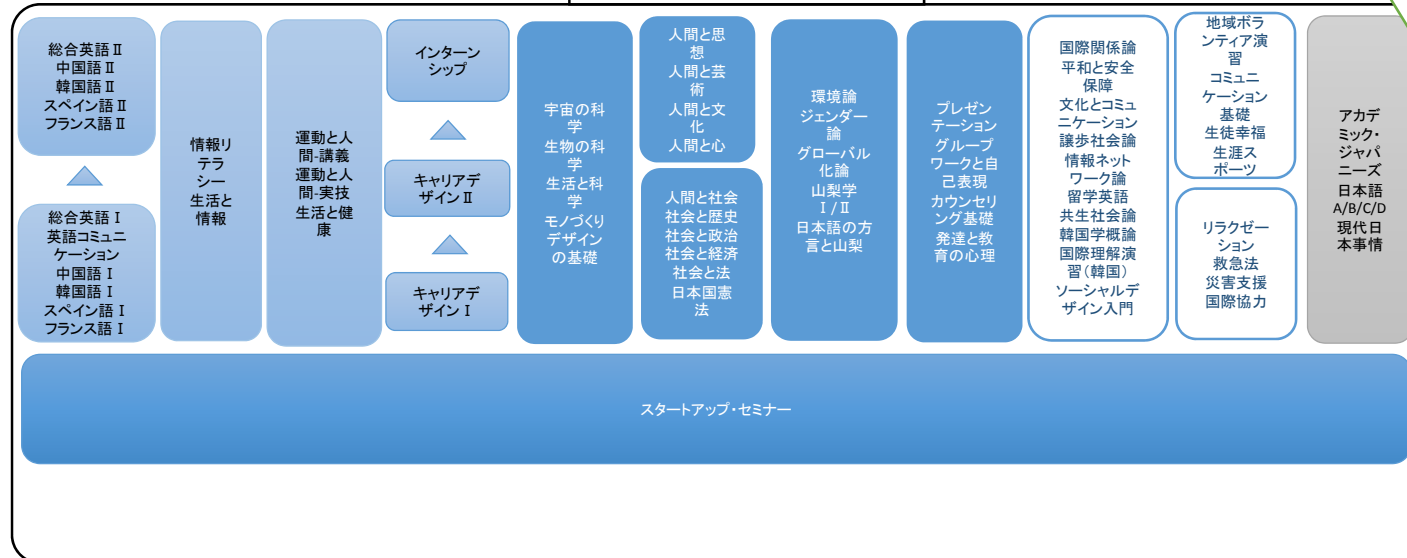
学位授与の方針	教育課程編成の方針
<p>本学の理念・目的及び教育目標に基づき、学生の学修成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士(専門分野)の学位を授与する。</p> <p>1. 全学に共通な学修成果である「学士力」を身に付けている。</p> <p>②. 各専門分野における「専門力」を身に付けている。</p>	<p>学士(専門分野)に係る学修成果を身に付けるための教育プログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成し実施する。</p> <p><総合性に関する方針> 1. 各専門分野を構成する多様な研究領域のつながりを考慮した専門分野の「総合性」を実現する。</p> <p><順次性に関する方針> 2. 授業科目区分と履修単位を組み合わせ年次ごとに系統的な学修を促す「順次性」を実現する。</p> <p><実施に関する方針> 3. 学生の主体的な学びや深い学びあるいは能動的な学修を促す「体験性」を実現する。</p>



学士力



全学共通科目



(3)－④ 学修成果の測定と可視化

学修成果の直接・間接データ

(1)直接データ

- 卒業論文、GPA、ポートフォリオ、**ルーブリック**、国家試験合格率外部テスト---

(2)間接データ

- 学生実態調査、学生(卒業生)満足度調査、雇用者調査、就職率---

どう組み合わせるかが重要！本学では、当面---

→ **卒業論文＋ルーブリック**

→ 「**ルーブリック＋GPA＋学生による授業評価**」を中心に試行

参考例

山梨県立大学の「学士力」の測定方法

学部	学科	学籍番号	氏名	担任教員							判定
文化力	感性	教養力	専門力	研究力	実践力	人間力	地域力	国際力	総合		
測定方法	人間と文化 人間と社会 山梨学 授業評価	人間と芸術 運動と人間 授業評価	共通科目群の GPA	専門科目群の GPA	卒業研究 ゼミ ループ リック 評価	実習科目 授業評価	人間と心 授業評価	サービス・ ラーニング 関係科目 目 授業評価	外国語 科目 授業評価	学士力	4.十分 身についた 3.身についた 2.やや不十分 1.不十分
評価		2.8	3.2	レベル3							
自己評価	4.十分 身についた 3.身についた 2.やや不十分 1.不十分	4.十分 身についた 3.身についた 2.やや不十分 1.不十分			4.十分 身についた 3.身についた 2.やや不十分 1.不十分	4.十分 身についた 3.身についた 2.やや不十分 1.不十分	4.十分 身についた 3.身についた 2.やや不十分 1.不十分	4.十分 身についた 3.身についた 2.やや不十分 1.不十分	4.十分 身についた 3.身についた 2.やや不十分 1.不十分		



ありがとうございました！